

## ◆政治・経済◆ 科目別講評

### (1) 出題方針

「政治・経済」の問題は、大問〔Ⅰ〕〔Ⅱ〕〔Ⅲ〕で構成される。毎年、「現代の政治（法律を含む）」「現代の経済」「現代社会の諸課題」の三つの領域を中心に、特定分野に偏らない出題を心がけている。出題は、教科書の記載内容に準拠しながら、高等学校の教育水準を超えない範囲で、次の2つの点を問うように意識している。

①「政治・経済」に関する正確な知識を修得しているか。

②政治、法律、経済など複数の分野を関連づけながら、現代社会におけるさまざまな課題について考える能力が身についているか。

なお、「政治・経済」という科目の特性をふまえ、教科書によってはほとんど記載されていないような内容についても、それが教科書の内容に沿ったものであれば、出題することがある。

### (2) 解答状況および解説

「政治・経済」の各日程の受験者と合格者の平均得点率は、次のとおりであった。

	受験者	合格者
2月5日 全学部日程(文系)	61.3%	73.4%
2月6日 文学部、経済学部	59.5%	74.0%
2月7日 政策学部、文化情報学部(文系型)、 スポーツ健康科学部(文系型)	62.5%	73.0%
2月8日 法学部、グローバル・コミュニケーション学部	65.1%	74.9%
2月9日 神学部、商学部、心理学部、グローバル地域文化学部	55.3%	69.0%
2月10日 社会学部	53.3%	70.0%

合格者の平均得点率は、69%から74.9%の範囲にあり、受験者の平均得点率に比べほぼ10ポイント以上高かった。大問単位で見ると、おおむねの傾向として「現代の政治（法律を含む）」と「現代社会の諸課題」の平均得点率が、「現代の経済」の平均得点率に比べて高かった。

2月5日の〔Ⅰ〕は国際政治と国際法、〔Ⅱ〕は日本経済の歩み、〔Ⅲ〕は雇用と労働に関する問題であった。大問別の平均得点率からは、〔Ⅰ〕～〔Ⅲ〕の難易度に大差はなく、難易度の高くない標準的な問題の解答での「取りこぼし」の有無が、合格者と受験生全体の平均点の差として現れたことが窺われる。

2月6日の〔Ⅰ〕は司法制度と裁判に関する憲法上の権利、〔Ⅱ〕は金融の仕組み、〔Ⅲ〕は中小企業に関する問題であった。大問別の平均得点率からは、〔Ⅰ〕～〔Ⅲ〕の難易度に大差はなかったことが窺われる。ただし、〔Ⅰ〕～〔Ⅲ〕のいずれも、記述問題で、合格者と受験生全体の平均点に有意差が認められることから、重要語句の正確な理解が重要であることが分かる。

2月7日の〔Ⅰ〕は、国会と内閣、〔Ⅱ〕は租税、〔Ⅲ〕は雇用と労働に関する問題であった。大問別に平均得点率を見ると、〔Ⅰ〕と〔Ⅲ〕は平均的、〔Ⅱ〕は難しかったようである。

2月8日の〔Ⅰ〕は基本的人権、〔Ⅱ〕は国際経済の歩み、〔Ⅲ〕は少子化・高齢化に関する問題であった。大問別に平均得点率を見ると、〔Ⅰ〕と〔Ⅱ〕は平易、〔Ⅲ〕は比較的難しかったようである。ただし、記述問題で、合格者と受験生全体の平均点に有意差が認められることから、重要語句の正確な理解が重要であることが分かる。

2月9日の〔Ⅰ〕は政治と法の基本原則、〔Ⅱ〕は農業と食糧問題、〔Ⅲ〕は途上国と国際協調に関する問題であった。大問別に平均得点率を見ると、〔Ⅰ〕が平均的、〔Ⅱ〕と〔Ⅲ〕はともに比較的平易であったようである。た

だし、記述問題で、合格者と受験生全体の平均点に有意差が認められることから、重要語句の正確な理解が重要であることが分かる。

2月10日の〔Ⅰ〕は地方自治、〔Ⅱ〕は経済の仕組みと経済思想、〔Ⅲ〕は経済のグローバル化に関する問題であった。大問別に平均得点率を見ると、〔Ⅰ〕と〔Ⅲ〕は平均的、〔Ⅱ〕はやや難解であったようである。ただし、記述問題で、合格者と受験生全体の平均点に有意差が認められることから、重要語句の正確な理解が重要であることが分かる。

「政治・経済」のすべての問題を通じて、(1)の出題方針と関連して、以下のことを指摘できる。

例年、「政治・経済」では、出題方針①の「正確な知識」を問うことを目的に、用語を答える問題を出題している。その意図は、入学後も必要とされる広範な知識を問うだけではない。読解力を問うことも目的にしている。知識を問う問題で適切な解答を導くために、受験者は、問題文の論旨に沿って論理的に内容を理解し、最も適切な答えを導き出す力も修得する必要があるからである。大学の学修では、こうした知識と読解力を基盤にして、さらに自ら論理を構築していく能力を鍛えることになる。

出題方針②の「複数の分野」に関連した出題は、「政治・経済」の特徴をよく表すものである。社会の諸問題は、政治、法律、経済など特定の学問分野で別個に検討が進められる一方で、これら個別領域を横断する問題としても把握できる。こうした分野をまたいで問題を理解し、その問題の解決に取り組もうとするアプローチは、現代社会において強く求められている。「政治・経済」において分野横断的な出題方針を採用する理由は、多様なアプローチを孤立させるのではなく、それぞれを統合し、こうした社会の諸問題の解決に取り組もうとする人材を求めているからである。そのため、「政治・経済」を学習するうえで、受験生は政治、法律、経済それぞれの分野における事柄の内容や仕組みを深く理解することに加えて、それらの分野を横断的に、総合的に考える能力が重要となる。

### (3) 受験生へのメッセージ

「正確な知識の修得」と「論旨に沿った適切な答えを導く力の育成」の二点を意識して学習に励んでいただきたい。はじめに、正確な知識の修得については、教科書の内容や社会問題について広範な分野をくまなく理解することが前提となる。そのために、1つひとつの事柄について、自身の言葉で説明出来ているかどうかを常に確認しながら学習を進めてほしい。次に、論旨に沿った適切な答えを導く力の育成については、文章を解析する力を蓄えるとともに、その論旨を読み解く能力を身につけることが基礎となる。この能力を身につけるために、教科書を熟読し理解を深めることを基礎としつつ、新聞やブログ記事などの長文を読み込む習慣をつけるとよいだろう。

その他、記述式の問題では、問題文中に「漢字で」という指定が特に明記されていなくても、教科書や用語集において漢字で表記されている用語や日本国憲法上の語句は、正しい漢字で解答しなければならない。また、解答を記す際に美しさにこだわりすぎる必要はないものの、判別できる正しい文字や数字等を記すことが必要である。

◆政治・経済◆ 出題の意図

102	<b>出題の意図</b>
[Ⅰ]	国際政治と国際法について、教科書に記載されている基本的な用語の確認を中心に、選択問題や正誤問題も織り交ぜながら、発展の経緯や現状に関する基本的な概念等の理解度を問うた。
[Ⅱ]	日本経済の歩みについて、教科書に記載されている基本的な用語の確認を中心に、選択問題や正誤問題も織り交ぜながら、21世紀を迎えた後の新しい展開も含めて、基本的な概念等の理解度を問うた。
[Ⅲ]	雇用と労働に関する問題について、所得格差など経済的な観点も加えて、教科書に記載されている基本的な用語の確認を中心に、選択問題や正誤問題も織り交ぜながら、基礎概念等の理解度を問うた。
103	<b>出題の意図</b>
[Ⅰ]	司法制度や裁判に関連する憲法上の権利について、司法制度改革についても視野に入れつつ、教科書に記載されている基本的な用語の確認を中心に、正誤問題も織り交ぜながら基本的な概念等の理解度を問うた。
[Ⅱ]	金融の仕組みについて、21世紀を迎えた後の新しい展開も含めて、教科書に記載されている基本的な用語の確認を中心に、選択問題や正誤問題も織り交ぜながら、基本的な概念等の理解度を問うた。
[Ⅲ]	中小企業の動向について、人口減少や高齢化など、日本社会を取り巻く他の問題とも関連させつつ、教科書に記載されている基本的な用語の確認を中心に、選択問題や正誤問題も織り交ぜながら、基本的な概念等の理解度を問うた。
104	<b>出題の意図</b>
[Ⅰ]	国会（立法）と内閣（行政）について、教科書に記載されている基本的な用語の確認を中心に、選択問題や正誤問題も織り交ぜながら、基本的な概念等の理解度を問うた。
[Ⅱ]	租税制度について、教科書に記載されている基本的な用語の確認を中心に、実際に累進課税率を計算する問題や選択問題も織り交ぜながら、21世紀を迎えた後の新しい展開も含めて、基本的な概念等の理解度を問うた。
[Ⅲ]	雇用と労働に関する問題について、主として女性労働者や外国人労働者の問題を中心に、教科書に記載されている基本的な用語の確認を中心に、選択問題や正誤問題も織り交ぜながら、基礎概念等の理解度を問うた。
105	<b>出題の意図</b>
[Ⅰ]	基本的人権について、関連する周辺領域に関するものも含めて、教科書に記載されている基本的な用語の確認を中心に、選択問題や正誤問題も織り交ぜながら、基本的な概念等の理解度を問うた。
[Ⅱ]	国際経済の歩みについて、金融や情報通信分野にも視野を広げつつ、教科書に記載されている基本的な用語の確認を中心に、選択問題や正誤問題も織り交ぜながら、21世紀を迎えた後の新しい展開も含めて、基本的な概念等の理解度を問うた。
[Ⅲ]	少子化や高齢化問題について、経済的な観点をふまえて、教科書に記載されている基本的な用語の確認を中心に、選択問題や正誤問題も織り交ぜながら、基本的な概念等の理解度を問うた。

<b>106</b>	<b>出題の意図</b>
<b>〔Ⅰ〕</b>	法治主義や法の支配など、政治と法の原則について、教科書に記載されている基本的な用語の確認を中心に、選択問題や正誤問題も織り交ぜながら、基本的な概念等の理解度を問うた。
<b>〔Ⅱ〕</b>	農業と食糧問題について、教科書に記載されている基本的な用語の確認を中心に、選択問題や正誤問題も織り交ぜながら、基本的な概念等の理解度を問うた。
<b>〔Ⅲ〕</b>	国際的な経済発展と発展途上国支援について、教科書に記載されている基本的な用語の確認を中心に、選択問題や正誤問題も織り交ぜながら、基本的な概念等の理解度を問うた。
<b>107</b>	<b>出題の意図</b>
<b>〔Ⅰ〕</b>	地方自治について、教科書に記載されている基本的な用語の確認を中心に、選択問題や正誤問題も織り交ぜながら、基本的な概念等の理解度を問うた。
<b>〔Ⅱ〕</b>	経済の仕組みを、それを支える経済思想をふまえて、教科書に記載されている基本的な用語の確認を中心に、選択問題も織り交ぜながら、基本的な概念等の理解度を問うた。
<b>〔Ⅲ〕</b>	経済のグローバル化について、貿易や市場の統合等を中心に、教科書に記載されている基本的な用語の確認を中心に、選択問題や正誤問題も織り交ぜながら、基本的な概念等の理解度を問うた。